

台風第24号 事前・事後対策について

平成30年 9月26日
農業経営支援課

●普通作物

【普通期水稻】（登熟期～成熟期）

（1）予想される被害状況

- ① 強風による茎葉の損傷や籾擦れが発生する。
- ② 倒伏による登熟不良や稲株の枯れが発生する。
- ③ 高温乾燥風での玄米の登熟障害や稲株の枯れが発生する。
- ④ 浸・冠水や土砂の流入が発生する。

（2）事前対策

- ① 倒伏や脱水症状の軽減のため、深水管理とする。
※但し、成熟期にあるほ場や、棚田等で畦畔崩壊の恐れのあるほ場は行わない。
- ② 浸・冠水しやすい水田では、溝切りや排水溝の整備を行う。
- ③ 成熟期にあるものは速やかに収穫する。

（3）事後対策

- ① 台風通過後も吹き返しの高温乾燥風がある場合、生育障害が発生する恐れがあるので、風が止むまで湛水状態を保つ。
- ② 浸・冠水したところでは、速やかに排水して新しい用水と入れ替える。
- ③ いもち病や紋枯病、ウンカ類の発生に注意し適宜防除する。
- ④ 倒伏した株は隣の株に乗せたりして、穂が地面に接しないようにする。
※倒伏の状態によっては、株を動かすと損傷を大きくするので注意する。
- ⑤ 倒伏により穂発芽や病虫害被害の恐れのあるところでは、早めに収穫する。
穂発芽等の被害箇所は刈分けして、全体の品質が低下するのを防ぐ。
- ⑥ ほ場に飛散したゴミは、作業や機械に支障を及ぼすので早めに除去する。

【大豆】（莢肥大期）

（１）予想される被害状況

- ① 湿害による生育不良が発生する。
- ② 茎葉の損傷や倒伏が発生する。

（２）事前対策

- ① 浸・冠水に備え、溝切りや排水溝の整備を行う。

（３）事後対策

- ① 浸・冠水したら速やかに排水し、侵食された畦は早めに土寄せする。
- ② 倒伏した株はできるだけ起こして、土寄せする。
- ③ 紫斑病やハスモンヨトウ等の防除を適宜行う。

【秋ソバ】（開花期～子実肥大期）

（１）予想される被害状況

- ① 風雨による株の倒伏や枯死、生育が不良となる。

（２）事前対策

- ① 溝切りや排水溝の整備など排水対策を行う。

（３）事後対策

- ① 速やかに排水を行い、侵食された畦は早めに補修する。

●野菜

【施設野菜全般】

(1) 事前対策

- ①ハウスバンドを点検し、ゆるみがないよう、しっかりビニルを押さえる。
- ②ビニル破損や隙間を点検し、破損箇所は早急に補修する。
- ③ビニルの上から防風ネット等を被覆し、ハウスバンド等で固定すると強度は増す。
- ④ハウス妻部には筋かいを入れて補強する。
- ⑤強風によりハウス倒壊の危険がある場合（25m以上の風）は、押さえバンドを切ってビニルを除去する。
- ⑥ハウスの周囲は滞水しないように排水溝等を整備する。
- ⑦防風ネットの設置してあるほ場においては、根石や支線の点検を行い風雨により強度が低下しないよう対策を講じる。
- ⑧ハウス周囲を点検し、強風で飛びそうなものは片付けるとともに、燃料タンク等の付帯設備がしっかり固定されているかを確認する。

※収穫終了後について

収穫が終了したハウスについても、破損ビニルやハウス内のマルチ等の資材が飛散しないよう、事前対策を徹底すること。



ハウス妻面の防風ネット設置例：

細かいネットを張った上から、比較的大きな目合のネットで押さえている

(2) 事後対策

- ①強風がおさまったら、直ちに換気を行い、補強で使用した防風ネット・寒冷紗等も除去する。
- ②ビニル破損等により生じた、傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ③湛水した場合速やかに排水を行う。
- ④草勢の低下や茎葉が損傷すると病害が発生しやすいので、登録農薬を散布する。
- ⑤速効性窒素肥料を成分で10a当り2～3kg施す。

【雨除けピーマン】

(1) 予想される被害状況

茎葉の損傷、傷果の発生、落果等による収量・品質の低下

(2) 事前対策

天井ビニルを剥ぎ、台風に備える。

(3) 事後対策

- ①ハウスビニル・防風ネット・寒冷紗等は直ちに除去し、通風を良くして、床面を乾燥させる。
- ②枝の折れたものや損傷の激しいものは早目に整枝・剪定し、薬剤散布を行う。
- ③倒れた枝は上向きに誘引して、受光態勢を整え、草勢の回復を図る。
- ④傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ⑤速効性窒素肥料を成分で10a当り2～3kg施す。

【いちご（育苗期）】

(1) 予想される被害状況

- ・冠水による病害の蔓延

(2) 事前対策

- ①排水溝等を設置し、排水に努める。
- ②寒冷紗・防風ネット等を苗の上に直接かけて、風で飛ばされないよう固定する。また、育苗ハウスの周囲に2～3mの防風ネットを設置し防風対策を講じる。

(3) 事後対策

- ①寒冷紗・防風ネット等の苗の上にかけていた被覆資材を、直ちに除去し、通風を良くする。
- ②苗の冠部が土に埋まったものは、速やかに土を除去する。
- ③雨風に当たると炭そ病等の病苗が増えるので、病株を早めに除去する。
- ④草勢の低下により病害虫の発生が心配されるので、薬剤散布を実施する。特に土壌伝染性病害に注意する。

【露地野菜類全般】

(1) 事前対策

①表面排水を速やかにするため、排水溝の整備を行う。



排水対策①畦に直交に整備された排水路



排水対策②傾斜の大きいほ場のため、表土流出軽減を目的にマルチで簡易集水路を整備している事例



排水対策③確実にほ場外に水を排出させます。



排水対策④パイプの敷設で畦畔の崩壊を防ぎ、ほ場外に水を排出させます。

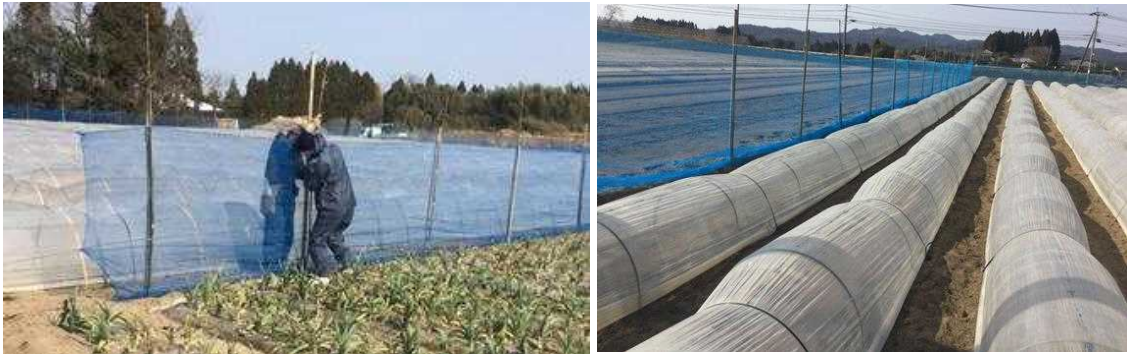


排水対策⑤排水口の点検整備を行います。



排水対策⑥このような状態では排水口が機能しません。

- ②防風ネットを設置するが、支柱や支線の点検を行い風雨により強度が低下しないよう対策を講じる。
- ③ほ場内外を点検し、散水機材等、しっかり固定されているか確認する。また、強風で飛びそうなものは片付ける。
- ④トンネル被覆されている場合は、トンネルが剥げないようにバンドのチェックや被覆ビニルの補修を行う。強風で飛びそうなものは片付ける



(2) 事後対策

各作物毎に記載

【かんしょ】

(1) 予想される被害状況

畝が冠水するといもが変質する

(2) 事前対策

- ・排水溝等を設置し、排水に努める。

(3) 事後対策

- ①冠水するといもが変質するので、冠水した場合は早急に排水を行う。
- ②根が露出している場合は培土をおこない、少量の窒素肥料を追肥して、草勢の回復を図るが、収穫可能な場合は追肥は行わず早めに収穫する。

【かぼちゃ】

事後対策

- ・強風で茎葉が損傷した場合は殺菌剤を散布する。

【ばれいしょ】

(1) 事前対策

- ・排水溝等を設置し、排水に努める。

(2) 事後対策

生育期

- ①強風により茎葉が損傷した場合は殺菌剤を散布する。

収穫期

- ②冠水したほ場では速かに排水をを行う。
- ③いもが肥大していれば早めに収穫する。収穫まで日数がかかるほ場については、疫病・軟腐病の予防として薬剤散布を直ちに行う。

【さといも】

(1) 事前対策

- ①排水溝等を設置し、排水に努める。

(2) 事後対策

- ①冠水したほ場では速かに排水を行い、早めに追肥を行う。
- ②疫病、軟腐病予防の薬剤散布を行う。
- ③株元まで冠水した場合は排水、マルチを剥いでから追肥、培土を行う。
- ④根が露出しているものは、早めに追肥して軽く土寄せする。

【オクラ】

(1) 事前対策

- ・排水溝等を設置し、排水に努める。

(2) 事後対策

播種後～生育初期

- ・苗立ち枯れ病が出やすくなるので、殺菌剤をかん注する。

収穫期

- ①冠水したほ場では、速かに排水を行う。
- ②倒伏したら上向きに誘引し、傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ③速効性肥料を追肥し、薬剤散布を行う。

【露地きゅうり】

(1) 事前対策

- ①栽培ほ場周辺に防風ネットを張る。
- ②排水溝等を設置し、排水に努める。

(2) 事後対策

- ①枝の折れたものや損傷の激しいものは早目に整枝・剪定し、薬剤散布を行う。
- ②倒れた枝は上向きに誘引して、受光態勢を整え、草勢の回復を図る。
- ③傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ④速効性窒素肥料を成分で10a当り2～3kg施す。

【きゃべつ、はくさい】

事後対策

- ・薬剤散布を行い、少量の窒素肥料を葉面散布して草勢回復を図る。

●果樹

【共通】

(1) 予想される被害状況

園内滞水に伴う根系の枯死及び樹勢低下。
強風による枝の折損及び落葉、落果。

(2) 事前対策

- ① ほ場への降雨が速やかに排出されるように園内の排水対策を徹底する。
- ② 防風ネットの点検を行う。
- ③ 枝の分岐点が裂けるおそれのある幼木や高接ぎ樹では、枝葉をまとめて結束したり、分岐部を縄で8の字型に縛っておく。

(3) 事後対策

- ① 結束した枝は、早めに解いて蒸れを防ぐ。
- ② 幼木・若木・根元から揺さぶられた樹・倒伏した樹は早急に立て直し、盛り土、根締めを行い、支柱で固定する。
- ③ 枝折れ、枝裂けしたところは切り取り、大きな傷口には塗布剤を塗る。
- ④ 枝が裂けたものは、軽傷であれば縄などでしっかり絞って固定し、回復を図るが、激しい場合は切り取って切り口に塗布剤を塗る。
- ⑤ 落葉のひどいものには、日焼けを防止するために、石灰乳を塗布する。

【かんきつ類全般】

収穫期である温州みかんの被害を最小限にとどめるように尽力する。
被覆前の施設日向夏などについては、かんきつ類全般に準じた管理を行う。

(1) 予想される被害状況

風傷に伴う果実や葉のかいよう病発生。
マルチ資材の破損。
黒点病の増加、褐色腐敗病の発生。
落葉及び落果。
塩害による樹勢低下（沿海地帯）。
カメムシの大量飛来。

(2) 事前対策

- ① 襲来前に銅水和剤の散布を行う。
- ② 温州みかんなどのマルチ栽培では、被覆資材が風であおられないように土のう等で固定する。

(3) 事後対策

- ① 襲来前の殺菌剤の散布を実施していないところでは、銅水和剤の散布を行う。
- ② 前回の黒点病防除から250mm以上の降雨があった場合は、収穫前日数に注意しながらマンゼブ水和剤等の殺菌剤の散布を行う。
- ③ 温州みかんなど、褐色腐敗病の発生が懸念される品種では、防除を実施する。薬剤の選択にあたっては、収穫前日数に留意する。
- ④ 塩害が懸念される場合は、6時間以内に2～3トン/10a以上の水で洗い流す。その後落葉が発生した場合は、程度に応じた摘果（場合によっては全摘果）や枯れ枝の整理を行う。
- ⑤ カメムシの飛来が見られる場合は、収穫前日数に注意しながら薬剤散布を行う。

【完熟きんかん】

基本的な対策については、かんきつ類全般に準じて実施する。

(1) 予想される被害状況

果実の傷の増加。

(2) 事前対策

- ① 防風ネットを設置し風を弱めるようにする。
- ② 後期加温を計画しているハウスでは、サイドビニルを設置して巻き上げ固定しておく等、被覆の準備を進め、通過直後にすぐに被覆、加温開始ができるようにしておく。

【マンゴー ビニル除去園】

(1) 予想される被害状況

強風による新梢の折損及び折損部からの炭そ病発生。
風傷に伴う葉のかいよう病発生。

(2) 事前対策

- ① 襲来前に銅水和剤の散布を行う。
- ② 防風対策として、ネットや寒冷紗等の展張を行う。

(3) 事後対策

- ① 新梢が折損した場合、発生部から除去し、炭そ病に効果のある殺菌剤を散布する。

【なし、かき、くりなど】

収穫期であるくり、晩生なし、かきの被害を最小限にとどめるように尽力する。

(1) 予想される被害状況

落果及び落葉。
葉や枝に発生する各種の病害。

(2) 事前対策

- ① 棚や防風ネットの補修を早めに行うとともに、棚の揺れの激しいところは支柱を立てて結束するなど補強を行う。
- ② 側枝等の棚への誘引を見回り、ゆるんでいる場合は締め直す。
- ③ 特になしは、棚線への枝の結付けをよくして、落果防止を図る。

(3) 事後対策

- ① 病気の発生に注意し、防除基準に準じて襲来後直ちに防除を実施する。収穫が近い場合は、収穫前日数に注意する。
- ② 主枝・亜主枝等の太枝が裂けたものでも、毬果・果実の成熟まで枯死しないと見込める枝は、傷口にゆ合剤を塗布してひもなどで固定し、収穫後切り離す。主幹部が折れたものは、萌芽した中の2～3本を育成する。台木から萌芽した場合は春の切接ぎの準備を行う。

●花き

【露地花き全般】

(1) 予想される被害状況

冠水、滞水、風雨による損傷、強風による倒伏、泥はねによる汚れ。

(2) 事前対策

- ① 滞水しないように排水溝を整備する。
- ② マルチは土寄せ、市販止め具等によりしっかりとおさえ、風による剥がれを防ぐ。
- ③ 生育に応じて、支柱・ネット等で誘引・固定を実施し、茎葉の損傷を防ぐ。
- ④ ほ場周辺の片づけを行い、飛来物による作物の被害を防ぐ。

(3) 事後対策

- ① 冠水・浸水があった場合は、速やかに排水作業を行う。
- ② 必要に応じて殺菌剤、液肥の葉面散布、追肥を行う。

【シキミ、キイチゴ】

(1) 予想される被害状況

冠水、滞水、風雨による損傷、強風による倒伏、泥はねによる汚れ。

(2) 事前対策

- ① 幼木は倒れる可能性があるため、支柱で固定する。

(3) 事後対策

- ① 湛水、冠水した場合は、速やかに排水を行う。
- ② 倒れた木、傾いた木は無理に起こすと根が切れて、枯死する場合がありますので、段階的に起こして、正常な状態に戻す。
- ③ ほ場に土砂が流入した場合、根の活力が低下して枯死する場合がありますので速やかに株の周りの土砂を取り除く。

【施設・雨よけ花き全般】

(1) 予想される被害状況

被覆資材、ハウスの破損、冠水、滞水、強風による茎葉の損傷、倒伏。

(2) 事前対策

- ① ハウスバンドを点検し、ゆるみがないよう、しっかりビニルを押さえる。
- ② ビニル破損や隙間を点検し、破損箇所は早急に補修する。
- ③ ビニルの上から防風ネット等を被覆し、ハウスバンド等で固定すると強度は増す。
- ④ ハウス妻部には筋かいを入れて補強する。
- ⑤ 強風によりハウス倒壊の危険がある場合（25m以上の風）は、押さえバンドを切ってビニルを除去する。
- ⑥ 冠水、滞水しないようにハウス周辺に排水溝の整備する。

- ⑦ 草丈がある程度伸びたものは、支柱を補強し、誘引ネット等の張りを強化して倒伏を防止する。
- ⑧ 하우스内のかん水チューブやスプリンクラー・ミスト施設は風で飛ばないように収納あるいは固定する。

(3) 事後対策

- ① 湛水、冠水した場合は、速やかに排水を行う。マルチ栽培の場合はマルチをはがして畦を乾燥させる。
- ② 台風後の高温・強日射の被害を防ぐために寒冷紗倒で被覆を行う。
- ③ 茎・葉の損傷が発生した場合は、薬剤防除・液肥の葉面散布等を行う。
- ④ 電照や夜冷育苗等、電気機器を使用する品目では、機器が正常に稼働するか点検・確認を実施する。

【スイートピー】

(1) 予想される被害状況

被覆資材、ハウスの破損、冠水、滞水、強風による茎葉の損傷、倒伏。

(2) 事前対策

ハウスの被覆を剥ぐことを想定し、地面に寝かし防風ネット等で覆う。

(3) 事後対策

- ① 降雨等により畦の表面が硬く締まった場合は、浅く中耕し、通気性・透水性を良くする。
- ② 欠株が多い場合は、わき芽を利用し複数本に仕立てるか、補植を行う。その他は施設花きに準ずる。

【コチョウラン他、冷房ハウス等】

(1) 予想される被害状況

被覆資材、ハウスの破損、強風による損傷、停電による高温障害。

(2) 事前対策

- ① 長期停電に備え、自家発電等を用意する。
- ② 夜冷育苗中のデルフィニウム等の苗は、夜冷库内に収納する。
- ③ 外部遮光、被覆等は除去するかハウス上部に巻き上げて固定する。

(3) 事後対策

- ① 落蕾等により停電した場合は冷房設定を再度確認する。
- ② 夜冷育苗の場合は、台風通過後、すみやかに遮光資材等の被覆を元に戻し、苗を夜冷库から外に出す。その他は施設花き全般に準ずる。

●茶

(1) 予想される被害状況

- ・ 茶園の冠水、潮風害の発生。
- ・ 幼木の倒伏、落葉。
- ・ 製茶工場の損壊。

(2) 事前対策

- ・ 幼木園では防風ネットを設置し、株元やマルチ資材への土寄せにより、茶株の揺れやマルチのばたつきを防止するとともに、排水対策を行う。
- ・ 2～3年生の茶園では、徒長枝を整せん枝する。
- ・ 製茶工場（煙突、屋根、雨とい、窓等）の点検・整備・補強を行う。

(3) 事後対策

- ・ 風雨による倒伏や地際部に損傷を受けた幼木園では、株元やマルチ資材への土寄せ、補修を行う。
- ・ 降雨が少なく、海からの風で塩分が付着したとみられる茶園では、できるだけ早くスプリンクラー等で散水（5mm以上）し塩分を除去する。
- ・ 強風により葉の損傷を受けた茶園では殺菌剤を散布する。
- ・ 滞水・浸食部分の速やかな排水処理と改修を行う。

●畜産

【畜産全般】

(1) 事前対策

- ・ 畜舎の防風対策を十分に行い、特に開閉部はしっかりと固定するなど、破損に注意する。
- ・ 特に山間部では、道路の通行止めが予想されるため、飼料（配合飼料、青刈り、サイレージ含）は、余裕をもって準備する。
- ・ 停電が予想されるので、発電機の手配とともに、試運転を行っておく。
- ・ 断水の可能性がある場合には、最小限の飲水量を給水タンク等で確保する。
- ・ 台風通過後の雨で濡れた畜糞を搬入するために、たい肥舎の出来上がりたい肥を移動し、搬入できるスペースを十分に確保する。

(2) 事後対策

- ・ 浸水した畜舎は、台風通過後速やかに消毒する。
- ・ 雨が打ち込んで、床が湿った床材は、速やかにたい肥舎に搬出し、乾燥した床材と入れ替える。

【養豚・養鶏】

(1) 事前対策

- ・ 鶏舎内への雨の打ちこみを避け、床に湿り防止を行う。
- ・ ウィンドウレス畜舎では、非常用発電機の燃料の確保と、点検を行い、停電時に換気扇が停止しないように注意する。

(2) 事後対策

- ・ 台風通過後は、急激に気温が上昇することがあるので、肥育豚及び出荷前のブロイラーでは、畜舎を開放するなど換気に努める。

【飼料作物】

- ・ 発芽間もない飼料作物は、長期間の冠水で湿害が予想されるので、ほ場周辺に排水溝を設置し水が貯まりにくいようにする。また、冠水した場合は速やかに排水する。
- ・ 折損が考えられる場合、トウモロコシやソルゴーは早めに刈り取るようにする。